

分かりやすく伝えるための工夫を学ぶ

五年(下)三 伝え方を選んで、ニュースを発信しよう

「ニュースを伝える」

「伝え方を工夫して発信しよう」

(十四時間)



一 学びの時間を保障する

ニュースを発信する学習というと、どんな授業をイメージするでしょうか。取材に行き、それを原稿にまとめ、取材したことを発表するといった学習活動を連想するかもしれません。これでは取材に費やす時間が多くなり、単元全体の総時数もかなり増えます。しかし、実際の授業では、取材にばかり時間をかけてはいただけません。大切なことは、教材文を熟読し、そこから学んだことをどう生かしていくかということに尽きると思います。

次に、ニュースの取材についてですが、学校行事などを通して見聞きしたことをもとに題材を選んでみたらどうでしょうか。事実をもとにしたニュースを考えることが容易になるばかりでなく、取材に出かけていく時間も削減され、教材文に向き合う時間を確保することができます。

二 学習のねらいと計画を知らせ、見通しをもった学習を

学習活動の計画は、事前に子どもたちに知らせます。

このことにより、子どもたちが見通しをもって学習に臨むことができます。どのように学習していったらよいかを考えさせる方法意識にも結び付きます。

第一次

教材文「ニュースを伝える」を読み、ニュースを伝えるための工夫を学ぶ。

・新聞(文字言語)の場合の工夫

・放送のニュース(音声言語)の場合の工夫

教材文、伝え方を工夫して発信しよう」を読みどのような手順でニュースを伝えたらよいかを学ぶ。

・新聞の場合

・校内放送の場合

・全校テレビ放送の場合

第二次

どのような題材をニュースとして伝えるか、決める。

第三次

自分の選んだ伝え方で、ニュースの記事や放送原稿をまとめる。

第四次

新聞を書いたり、放送原稿の読み方の練習をし

たりする。

第五次

発表会を行う。

三 書く活動を意識した読み取りを

教材文からニュースを伝えるための工夫を学ぶ

まず、教材文「ニュースを伝える」から、ニュースを伝える手段として、新聞、テレビ、ラジオがあることを確認します。

次に、新聞の工夫を読み取ります。「見出し」「前文(リード)」「記事の本文」という「逆三角形の構成」になっていることを知らせます。この場合、実際の新聞を用いて指導することが大切です。教材文の中にも小学生新聞の例が載っていますので、これと併用するとよいでしょう。「逆三角形の構成」のよさについてもしっかりとつかませるようにつとめます。このことが、あとで新聞を書く場合の重要なポイントになります。

さらに、放送のニュースの工夫について、その文章の書き方の工夫や新聞の場合との違いについてはつきりさせましょう。耳で聞くときの聞きやすさ、分かりやすさを意識した文章の書き方について話し合わせるなどの学習活動を取り入れてみました。

教材文によってニュースを伝える方法を選ぶ

教材文「伝え方を工夫して発信しよう」で、自分のニュースの伝え方を選んでいきました。「新聞」「校内放送」「全校テレビ放送」の三つの方法の手順について学びました。三つの方法の手順をよく理解させた上で、伝える方法を選ばないと、安易に決めてしまうことがありますので、それは避けたいと思います。実態によっては、ニュースとする題材を決めてから、伝える方法を決めるということも考えられるでしょう。

学校行事などで体験したことからニュースの題材を選ぶ

ニュースの題材は、学校行事や日常の活動の中で体験したことなどを取り上げることになりました。「林間学校で学んだこと」「委員会活動に入って」「が、子どもたちから挙げられた題材で、取材の時間を取ることができなく、すぐに記事や放送原稿に取り組みことができました。

このときに大切なことは、ニュースを伝える相手をはっきりさせておくことです。林間学校や委員会活動は、現四年生が五年生になったときに必要な情報になるだろうという考えから、伝える相手を四年生に絞りました。相手が四年生に決まったことで、来年五年生

になる四年生のためにニュースを提供するといった目的意識も高まりました。

発表会の方法を考える

できれば全員に発表させたいという思いが強くありました。四年生を前にして、新聞を書いた子どもたちは、記事の内容を発表しました。また、校内放送や全校テレビ放送を選んで放送原稿を書いた子どもたちは、生放送という形で、ビデオに録画しながら発表をしていきました。少し工夫すれば、全員に緊張感や臨場感をもたせながら学習を進めることができると思います。

折しも「NHK放送体験クラブ」の案内が舞い込み、学習の発展として、自分たちで番組作りをするという体験ができました。機会があれば、地域の放送局とタイアップして進めることで、学習の効果が上がると思います。しかし、あくまでも、本教材を生かしたものでなければ、番組を作るといふ活動のみに終始してしまつので、気をつけたいと思います。

四 評価について

教材文から学び取ったことが、新聞や放送原稿に生かされたかどうかを見取ることによって評価しました。

特に、中心になることを先に述べ、あとでそれを詳しく説明するという手法は、新聞記事も放送原稿も共通のことなので、この点を評価項目に入れました。どいういう点に工夫して書いたかと問い、前述の手法を意識して書いたという自己評価であればよしとしました。また、指導者側の評価として、新聞、放送原稿ともに、教材で学んだことが生かされているのかをチェックしました。

新聞の評価項目

- ・見出しがあるか。
- ・前文でニュースの内容を簡単にまとめて書いてあるか。
- ・記事の本文を全体の中の大事なことや結論から始めているか。

放送原稿の評価項目

- ・放送原稿を全体の中の大事なことや結論から始めているか。
- ・全体をまず述べ、続けて詳しく述べる文を加える、二段構えの書き方になっているか。
- ・一文が短いか。